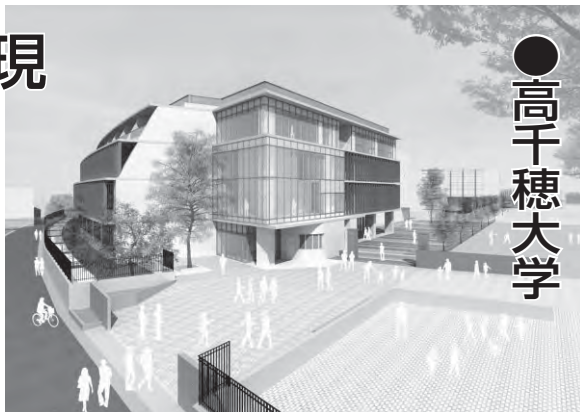


# 諦めさせない就職支援の実現

● 高千穂大学



新1号館完成予想図（平成27年完成予定）



高千穂大学 学務部次長  
就職支援課担当

渡邊 均

## 1 本学の就職支援について

1903年に開学した高千穂学園は、創立以来今日まで理事会・教授会・事務局職員・同窓会・父母の会が一体となって、学生一人ひとりを家族のように支えていく「家族主義的教育共同体」という学園文化に基づいた教育を実践している。それは就職支援においても同様である。すべての就職支援行事には事務職員だけでなく就職委員会の教員が携わり、ゼミナールにおいても就職支援課の利用促進を進めるなど、全学的に就職支援に取り組んでいる。

## 2 教員と就職支援課との連携

特に本学の特徴として挙げられるのは、教員と就職支援課との有機的な連携である。具体的には、支援行事での出席状況を定期的にゼミ教員に伝え、ガイダンスの参加促進につなげている。就職支援課で聴取している学生相談内容を、「求人naviシステム」により教員も閲覧できること等の活動、さらには、学生の内定状況を教員と就職支援課が共有し、未内定者への支援強化を図っている。

このことにより、約8割を占めるゼミナール所属学生の状況把握をすることと、ゼミナール未所属学生に対する支援に積極的に取り組むことができ、全体的な底上げにつながっている。

## 3 企業との関係強化

本支援課が近年、力を入れているこ

とは、企業との太いパイプ作りである。長期にわたりお世話になってきた企業との関係強化はもちろん、新規企業開拓にも積極的に取り組んでいる。

その具体例として、学内合同企業説明会の開催回数を増やし、本学学生に関心の高い企業と学生との出会いの場を多く設けている。また、4年生に対しては早期から学内個別企業説明会を実施しており、卒業時までの1年間継続的に企業と出会う場を提供している。

昨年度の個別企業説明会の実施企業数は72社に上り、そのうち43名が内定をいただいた実績がある。

## 4 きめ細やかな4年生の並走支援

ゴールデンウィークを過ぎたころになると、序盤で精力的に活動してきた学生に就職活動への疲労が見え始め、活動を一旦休止する学生が目立つようになる。そのため、ここからが一人ひとりのきめ細やかな就職支援が大切になってくる時期であり、本学の就職支援の強みが発揮される。

まず本学では、履歴書は就職支援課にて配付をしているため、配付状況によって個々の活動状況を把握できる。そこで、積極的に行動していた学生が停滞していた場合には、学生を呼び出してその原因を探り、解決を図る方策をとっている。

また、面接が苦手な学生には積極的に面接練習を呼びかけ、書類が通らな

業を中心に活動している学生には視野を広げるアドバイスをしている。

さらに、これまで活動をしてこなかった学生に対しては、まずは書類を作成するところから始め、学内の個別企業説明会を就職活動のスタートにするよう誘導している。このことは、学内の個別説明会では常に職員とも関わりをもつため、信頼関係を構築しやすく、就職支援課に来る習慣が身につくことに役立っている。そこから学生の希望や適性に応じて求人紹介等支援を継続している。

そして課題となっている「顔を出さない学生」への対策としては、まずその学生のゼミ教員へ連絡をする。それでも来課しない場合にはゼミナールや所属部活動等から友人関係を探り、友人と一緒に連れて来るよう促す。また、並行して「未内定者支援」を父母向けに積極的にアプローチすることによって、ほとんどの学生を把握することが可能となっている。

上述のように対象学生全員を就職支援課へと呼び込み、それぞれに応じた支援を教員とともに密に連携して実施することによって、多くの学生の内定取得につながっている。

今後多くの企業と関係を深め、教員と事務組織の連携もさらに強化し、就職を希望する学生全員が希望する進路につけるよう、全学一体となって厚い就職支援に取り組む、社会に有為な人材を輩出していきたくと考えている。